

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

高知県防災キャンプ推進事業

高知県教育委員会事務局学校安全対策課

【事業のポイント】

- 地域が一体となって取り組む防災教育の視点にたった体験活動の推進
- 小中一貫校の強みを活かした「異年齢の関わり」や「地域との絆づくり」をキーワードとした防災教育プログラムの実施
- 県教育委員会主催による防災教育推進フォーラムの開催による取組の普及・啓発



<須崎市立南小中学校>

1. 企画

(1) 事業実施の背景

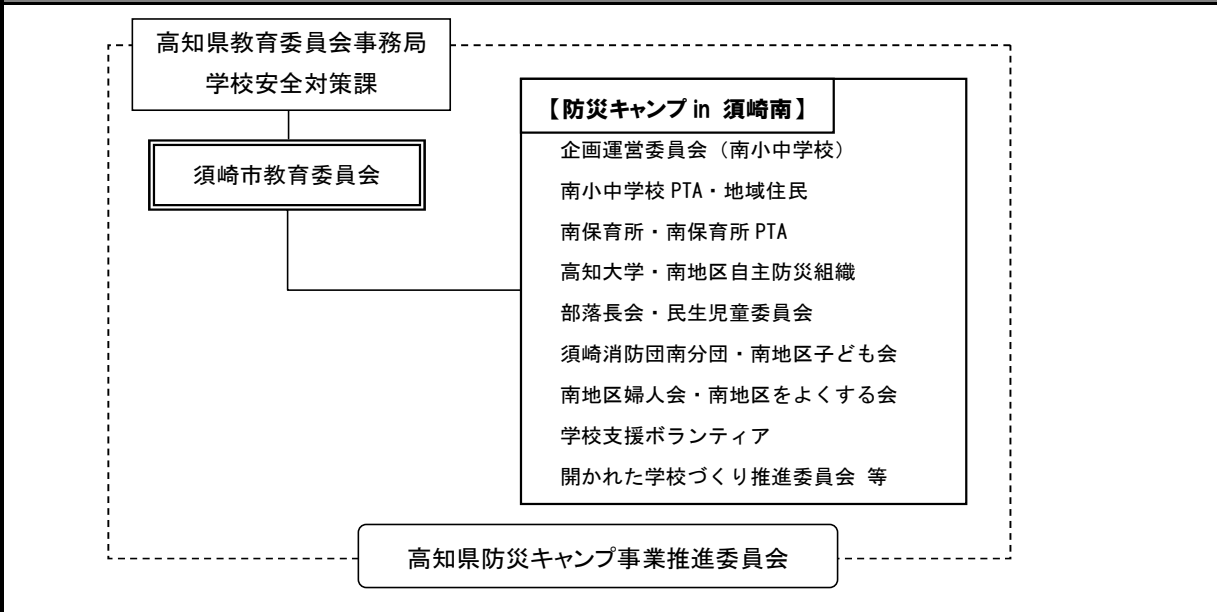
南海トラフ地震への備えは高知県の喫緊の課題であり、東日本大震災の教訓から、学校・地域が連携した防災教育の重要性が再認識された。本年度のモデル地区である須崎市の南小中学校区は、土佐湾につながる野見湾に位置しており、南海トラフ地震による津波の高さは約13mと想定され、甚大な被害が予想される地域にある。災害発生時に児童生徒等が的確に判断し、「自分の命を自分で守る」ことができるよう、地域で起こる可能性がある災害や被災時の対応等の理解、学校等を避難所とした生活体験など、様々な防災教育プログラムを実践することにより、自ら考え行動できる児童生徒を育成し、生きる力を育む防災教育のより一層の推進が必要である。

(2) ねらい

- 児童生徒等が避難所生活を体験することによって、災害発生時の行動や生活を考える機会とする。
- 学校・保護者・地域住民・関係機関等の参画による防災キャンプのプログラムを計画・実施することで、地域の絆づくりを促進する。
- 参加者全員での避難訓練や防災食を体験することで、地域の避難経路や避難場所、備え等の課題を共有する。
- 県教育委員会主催の防災教育推進フォーラムでの実践報告を通して、県全体で成果と課題を共有し、高知県の学校等における防災教育の推進を図る。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2)開催実績	
月 日	内 容
4月23日	事業日程の調整及び運営体制の検討(須崎市教育委員会)
5月13日	防災キャンプ in 須崎南 第1回企画運営委員会(須崎市教育委員会)
6月16日	防災キャンプ in 須崎南 第2回企画運営委員会(須崎市教育委員会)
6月17日	防災キャンプ in 須崎南 事前準備委員会(須崎市教育委員会) 「防災キャンプの体験活動打合せと準備の確認(HUGについて)」
6月20日～21日	防災キャンプ in 須崎南【防災体験活動:No. 1】(須崎市教育委員会)
6月27日	防災キャンプ in 須崎南 第3回企画運営委員会(須崎市教育委員会)
9月21日	防災種目を入れた小中合同運動会の実施【防災体験活動:No. 2】(須崎市教育委員会)
9月28日	防災教育の一貫としての防災俳句づくり【防災俳句づくり体験活動:No. 3】(須崎市教育委員会)
11月1日	防災学習発表会としての文化祭の実施【防災体験活動:No. 4】(須崎市教育委員会)
11月17日	花いっぱいプランターづくりのボランティア【防災体験活動:No. 5】(須崎市教育委員会)
2月1日	高知県防災教育推進フォーラム(高知県教育委員会)
通年	教科・道徳等における「生きる力を育む防災教育」を通年研究 授業研究後のワークショップ型の事後研究による授業改善

3. 防災キャンプ実施概要

【須崎市教育委員会に再委託】実施場所:須崎市立南小中学校

【防災体験活動No.1】		
6月20日(金)	防災キャンプ in 須崎南(1日目)	
8:40	○開会式	
9:00	○防災講演会と避難所運営ゲーム(HUG) 【講師:高知工業高等専門学校 岡田 将治 准教授】 ・中学生が避難所の運営者となり、小学生、教職員、保護者、地域の方々が様々な設定の避難者役をしながら、避難所開設などの運営を体験	
		<避難所運営ゲーム>
12:40	○昼食	
13:30	○小中合同の防災水泳教室 ・バケツリレーによる消火活動、ペットボトルやビニル袋を浮輪代わりにして泳ぐ体験等	
		<防災水泳教室>
15:00	○ドラム缶風呂入浴体験(小学生) ・学校周辺で集めた木材を燃やして、ドラム缶風呂の水を温め入浴	
		<ドラム缶風呂入浴体験>
	○カレー皿づくり(中学生) ・災害時を想定した紙を使った皿づくり	
16:00	○小1～小3下校 ○夕食炊き出しボランティア訓練(ビニル炊飯、カレーづくり)	
17:30	○夕食(炊き出しカレー)	
18:00	○集会(「南小中避難所ボランティア隊」の結成) ・ダンボールや椅子を使ったベッドづくり、新聞紙を使った枕づくり等	
19:00	○宿泊所づくり	
20:00	○夜間の避難訓練 ・懐中電灯を使って地域の高台へ避難	
		<夜間の避難訓練>
21:00	○振り返り	
21:30	○宿泊体験(小4～中3)	<宿泊体験>

6月21日(土) 防災キャンプ in 須崎南(2日目)	
6:00	○起床
6:30	○朝のつどい・ボランティア活動(トイレ・施設の掃除、水汲み等)
7:20	○朝食(ごはん、みそ汁)
8:15	○小1～小3登校(2日目の活動の確認)
8:40～12:25	○防災学習(小1～小3) ・防災授業、起震車体験、防災カルタ大会
8:40～10:00	○AED・救急法体験学習、起震車体験(小4～中3・中学校教職員) ・非常時に「助ける人」となるための体験学習
10:00～11:30	○避難所炊き出し訓練(小4～中3) ・おにぎり、豚汁づくり
12:00	○昼食(おにぎり、豚汁)
13:00	○昼食片づけ(小4～中3) ○防災学習(小1～小3) ・南海地震やチリ津波を経験した地域の方からの話
14:00	○防災キャンプの振り返り(小4～中3) ・2日間の防災キャンプの振り返りとまとめ ・模造紙に学習の成果をまとめる
15:00	○学習成果の発表 ・全校児童、生徒、保護者、地域の方々に学習の成果を発表
15:30	○閉会式



<心肺蘇生法体験>



<炊き出し訓練>



<おにぎりづくり>



<学習の成果発表>

【防災体験活動No.2】

9月21日(日) 防災種目を入れた小中合同運動会	
9:00	○開会式(午前中は17種目実施) ○競技開始 【種目No. 5】「急げ！避難所へ」(小1～小3) ・2人1組で担架を持ち、トラックの途中にある「くじ」に書かれている、避難所で必要となる物資の名前の書かれた段ボールを担架に乗せて運ぶリレー (避難所に必要な物資の名前を競技中に放送することにより、家庭で備蓄の必要な物資を保護者や地域の方々に理解してもらう) 【種目No. 11】「SOS 心を一つに防災リレー」(中学生) ・3人1組で竹の棒2本と毛布1枚で臨時担架をつくり、1人を担架に乗せて運ぶ救助リレー (臨時担架で救助する活動を見てもらうことで、中学生の防災学習の取組の成果を保護者や地域の方々に理解してもらう)
12:00	○昼休み
13:00	○競技開始(午後は8種目実施) 【種目No. 20】「南を守れ救援隊」(小4～小6) ・赤白に分かれ、バケツリレーで防災グッズを運ぶリレー リレーの最後に赤組は「糸」という文字、白組は「半」という文字を1枚の大きな板に張り付け「絆」という文字をつくる (災害時の消火に役立つバケツリレーを見てもらうことで、子どもたちの防災学習の取組の成果とバケツリレーの重要性を保護者や地域の方々に理解してもらう)
15:00	○閉会式



<SOS 心を一つに防災リレー>

【防災俳句づくり体験活動No.3】

9月28日(日) 防災教育の一環としての防災俳句づくり	
8:30	○講師来校・打合せ 【講師:俳人 夏井 いつき 氏 他1名】
9:35	○防災俳句づくり(小学生) ・小学生の防災俳句づくり指導
11:30	○防災俳句づくり(中学生) ・中学生の防災俳句づくり指導
12:30	○昼休み
13:30	○「講演会」「句会ライブ」(児童生徒・保護者・地域住民) ・講師の講演を受けた後に、参加者が「命の大切さ」「地域の自然の素晴らしさ」を考え、「5・7・5」で俳句をつくり、講師による講評を受ける「句会ライブ」の実施 (講師による振り返りにより、参加者の防災意識が向上)
16:30	



<句会ライブ>

【防災体験活動No.4】

11月1日(日) 防災学習発表会としての文化祭	
9:00	○開会式
9:10	○小学生ステージ発表 ◆「わくわくせいかつ」(小1) ・春から育ててきた朝顔の観察をもとに、植物の成長を通して命の大切さを劇にして発表 ◆「ドラえもん和世界旅行」(小2) ・どこでもドアを使い、世界のいろいろな国を旅行する異文化理解を劇にして発表 ◆「じゅげむ」(小3) ・じゅげむという名前は、子どもの将来を案じ、長生きしてほしいという思い(生命尊重)を込めてつくられたことを劇にして発表 ◆「にん・ニン・忍者」(小4) ・落語劇を通じて、協力の大切さを発表 ◆「人々を救った稲村の火 2014」(小5・小6) ・ふとしたことから江戸時代にタイムスリップした子どもたちは、1864年(安政元年)に起こった地震で、津波から人々を救った浜村さんと出会う。子どもたちは自ら考え、浜村さんとともに人々を津波から守る決意を行動に移す様子を劇にして発表
10:50	○中学生ステージ発表 ◆「夢に向かって」(中1) ・将来の夢に向けて、悩みながらも頑張る生徒の姿を劇にして発表 ◆「future～未来への思いをのせて～」(中2) ・未来への希望を合奏と合唱の音楽で表現 ◆「未来予想図Ⅲ」(中3) ・未来の夢について考えた中学3年生の劇発表 ◆「手紙(アンジェラ・アキ)」(教職員) ・教職員による合唱の発表 ◆「南中ソーラン」(中学生全員) ・中学生全員で力を合わせて雄大に踊る



<人々を救った稲村の火 2014>

12:00	○昼食
12:50	○ユニセフ募金活動説明 ・平成9年から活動を始めて18年目になる、ユニセフ募金活動について生徒会から参加者に説明
13:00	○中学生英語暗唱 ・中1～中3までの代表者が英語暗唱を発表
13:30	○小学生全校合唱・中学生全校演奏
14:00	○閉会式
14:15	○バザー
15:20	・バザー及びユニセフ募金活動

【防災体験活動No.5】

11月17日(月) 花いっぱいプランターづくりのボランティア体験活動	
14:50～	○プランターの花の植え付け
15:35	・小学生と地域の高齢者がプランターにパンジーの花の苗の植え付けを行う
16:00～	○プランターを地域に配布
17:00	・中学生が地域の道路や施設にプランターを配布



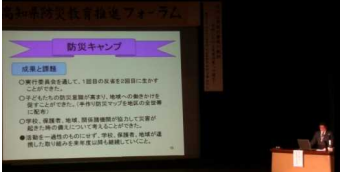
4. 普及啓発の実施概要

【須崎市教育委員会】

- ・防災キャンプの様子が高知県のNHKのニュースで放映される。
- ・2日間の防災キャンプの活動が須崎市のケーブルテレビで放映される。
- ・毎月1回、学校から校区の全家庭に配布している学校通信に防災キャンプの様子を掲載する。

【高知県教育委員会】

活動名	平成26年度 高知県防災教育推進フォーラム
趣旨	防災教育推進モデル校による実践発表や講師による講話等を通して、南海トラフ地震に備え、子どもたちの防災対応能力の向上と高知県の学校等における防災教育のより一層の推進を図ることを目的として開催する。
実施期日	平成27年2月1日(日)
実施場所	高新RKCホール
参加人数	約200名
対象	教職員、市町村(学校組合)教育委員会学校安全担当者、市町村防災担当職員 PTA、防災教育に関心のある方等

プログラム		
時間	内容	
13:00	開会 開会挨拶 高知県教育次長 中山 雅需	
13:10	講演「大川小学校事故の教訓 ～学校における災害対策への提言～」 株式会社 社会安全研究所 代表取締役 所長 首藤 由紀 氏	
14:40	休憩	
14:50	高知県の取組「高知県安全教育プログラムに基づく防災教育」 高知県教育委員会事務局 学校安全対策課 課長補佐 岡田 直子	
15:05	実践発表「高知県防災教育推進モデル校の実践から」 ○室戸市立佐喜浜小学校 (高知県防災キャンプ推進事業実施校) ○奈半利町立奈半利中学校 (高知県実践的防災教育推進事業拠点校) ○高知県立須崎高等学校 (高知県実践的防災教育推進事業拠点校) ○高知県立須崎工業高等学校 (高知県実践的防災教育推進事業拠点校)	 <p><防災キャンプの実践発表></p>
16:20	閉会	
WEBや広報誌等		
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、テレビ等各種メディアへの行事概要の広報 ・高知県教育委員会事務局学校安全対策課ホームページへ「平成26年度防災キャンプ推進事業」として、事業実施モデル校のプログラムの内容を公開(予定) 		

5. 成果と課題

(1) 事業成果

本年度、小中一貫校である須崎市立南小中学校で「異年齢の関わり」「地域との絆づくり」をキーワードとして多くの体験と様々な研修を組み込んだ防災キャンプを実施することで、子どもたちだけでなく、保護者、地域住民や関係諸機関等の方々にとっても非常に有益な事業となった。

例えば、講師を招聘したHUG(避難所運営ゲーム)では、中学生が避難所の運営役となり、受付係・救護係・物資調達係等の役割を決め、小学生、教職員、保護者、地域の方々が様々な設定の避難者役をしながら、避難所開設等の運営を体験した。避難してきた方の個々の状況を把握し、最善の対応を考える行動する体験は、避難所運営の大変さを知るとともに、地域の一員として自分たちにできることを考える良い機会となった。また、地域の方々にも避難者役として一緒に参加してもらうことで、実際の避難所運営の様子をより具体的に理解してもらうことができた。

夜間の避難訓練では、懐中電灯で道を照らしながら、学校周辺の2か所の高台への避難訓練を実施し、集合場所では、懐中電灯を全部消した暗闇体験もできた。昼間の避難訓練とは違い、懐中電灯などの明かりの重要性を児童生徒は体験を通して感じる事ができた。児童生徒からは「夜間に地震や津波が来た時、真っ暗な中で避難をするためには、家の寝ている場所に懐中電灯を備えておくことが重要だと思った」という感想があったように、備えの不十分さの実感とその対策を具体的に考える機会となった。

学校・家庭・地域が連携した炊き出し訓練や地域の木材を使ったドラム缶風呂の体験、多目的室等での宿泊体験等を通して、災害を想定した不便な避難所生活を集団で体験し、被災時の苦労等について、わずかの期間ではあるが、身をもって体験し、ともに乗り切ることで地域の一体感や防災意識の醸成を育むことにもつながった。

小中合同の運動会では、全校児童生徒が防災種目を実施したり、文化祭では防災教育の取組を発表したりするなど、学校行事を防災の視点で見直すことにより、保護者や地域、行政、各種関係機関との連携の強化・充実を図ることができた。

防災キャンプの取組以外の場面でも、学校の教職員が地域の人材活用のために地域に出向き、南海地震を実際に体験した地域の高齢者からの聞き取り調査を児童生徒とともに行うなど、学校だけでなく、地域と積極的に関わる重要性を再確認することができた。

本事業を通して、学校・家庭・地域・行政・関係機関が連携し、実践的な体験活動を実施でき、児童生徒の多様な主体的な活動により、地域社会や家庭の防災に対する教育力を向上させるとともに、将来、地域を担う児童生徒の災害に対する能力の向上や防災に対する自立の基礎を育て、「生きる力」を育む防災教育の実践ができた。

「参加者からの感想」

○保護者・地域の方の感想

- ・炊き出し訓練に参加したが、多人数の食事を安全に能率的に作るためには、みんなの協力が必要であると実感した。
- ・家庭に水の確保として、ペットボトルを買っていますが、期限が切れていることもあった。水や非常食への関心が今回の防災キャンプに参加して実感できた。
- ・今後も防災キャンプなど、地震・津波の対応などを学校で続けてもらいたいし、また、ボランティアとして参加したいと思う。

○教職員の感想

- ・避難所運営ゲーム(HUG)では中学生が避難所での受付係や避難者への様々な要望等に対して、自ら考え、行動し、自分たちも地域の一員として、災害時の手伝いや避難所での運営スキルについて、体験を通して学習することができた。
- ・非常時には、物が不足するが、身の回りにあるもので、いろいろアイデアを出すことで代用できることを学ぶことができたと思う。
- ・夜間の高台への避難訓練を初めて行ったが、各家庭で懐中電灯を常備することの重要性や、定期的な乾電池の交換などの必要性を考えることができたと思う。
- ・もし災害があつて、数週間又は数ヶ月間、体育館等で避難所生活をすると思った時のいろいろな不便さやプライバシーや安全面の確保、苦情対応、健康管理、トイレのこと、明かりの重要性など様々なことを考えることができた。
- ・防災キャンプを通して、普段から行っている地域ぐるみの教育の重要性を実感することができたので今後も継続して取組を進めていきたい。

○関係機関の方の感想

- ・1日目の避難所運営ゲームでは、避難訓練や防災学習ではあまり体験する事のない体験をすることができた。避難所の物的な充実が一番の課題だと考えるが、このような体験を通して、人的な対応の充実を図っていくことも大切なのだと考える機会になった。
- ・夜間に行った避難訓練では、懐中電灯がないと階段を登ったり坂道を避難したりする時に大変危険になるだろうと感じた。いつ避難をしなければならぬ状況になるかわからないので、さまざまな状況を体験する事で、今自分にできることを考えることが大切だと感じた。東日本大震災の報道では、「想定外」という言葉がたびたび使われてきたが、今回の防災キャンプでは、普段は気づかない「想定外」について考えることができた。
- ・子どもたちの日常の生活を考えると、与えられたものを利用することが多い社会になっていると思う。「自分にもできる」という感覚は、長期化が予想される避難生活の中、南地区において子どもたちが地域住民の一員として活躍できる大切な一歩になると思った。

(2)事業運営上の課題・留意点

本事業の取組により、地域の非常時の体制や避難所開設時の対応等の困難さや備えの不十分さについても共通理解を図ることができた。

今後は、非常時に実際に機能する防災体制の確立と地域のリーダーの育成を目指し、地域の高等学校や県内の大学の学生等とも新たな連携体制を築くとともに、防災キャンプで培われた地域との連携の基盤をさらに拡大・強化し、実施地域の防災計画の中に、地域で連携した防災活動(学習・体験・訓練)を計画的・継続的に組み込んでいく必要がある。

学校においては、次年度以降も高知県の安全教育の指針である「高知県安全教育プログラム」に基づいた防災教育を系統的・計画的に実践し、主体的に行動することができる子どもの育成を図るとともに、子どもたちから家庭や地域への情報発信を行うことにより、地域の防災意識の向上を図ることが重要である。

東日本大震災以降、防災に関しての県民の意識は強まってきており、本事業の推進と共に高まってきた全体の機運を来年度以降も継続し、モデル地区での取組成果等をWEBページ上や高知県防災教育推進フォーラム等で県下全域に積極的に発信し、本事業のさらなる普及・拡大を図るとともに、地域の防災組織づくりをさらに推進していきたいと考えている。

(3)その他

以上のような成果と課題からも分かるように、本事業は本県にとって大変意義深いものとなっている。次年度も地理的条件を一定考慮しつつ、幅広い市町村で本事業を実施し、防災教育の新たな連携の輪を広げていきたいと考えている。

6. 団体プロフィール

高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1-7-52
TEL: (088)-821-4533 FAX: (088)-821-4546
E-mail: 312301@ken.pref.kochi.lg.jp
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/>



<地域と連携した炊き出し訓練>